

ニホンジカ

野崎島で
出会えるのは
まるで“神の使い”。



長

崎県には、旅先で野生動物に出会おう、という楽しみ方も。

五島列島の北端に位置する小値賀島。 「おもてなしの島」として知られるこの島から船に揺られること約三十分。到着したのは、宿泊施設の管理者以外住んでいない、ほぼ無人の島・野崎島だ。かつては野崎、野首、舟森の三集落があり、約六百五十人の人々が暮らしていたが、時代の流れとともに島を離れてしまったという。二〇一八年には「野崎島の集落跡」が「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つとして、世界文化遺産に登録された。

野崎島には、約四百頭が生息しているという。古く石垣が残る野崎集落跡を歩いていると、さっそくシカの親子が顔をのぞかせる。シカは警戒心が強く、近寄っては来ないものの、立ち止まったままじっとこちらを見つめてくる。その表情の愛らしいこと。瞬間、シカと会話をしているように感じた。

野崎島は実に見所の多い島だ。カトリック教会堂建築の名工・鉄川与助が手掛けたレンガ造りの旧野首教会。古来より王位石と呼ばれる巨石がそびえ立つ沖ノ神嶋神社。まるでサバンナを思わせる草原……。行く先で野生のシカに出会うことができる。圧倒される大自然と奥深い歴史、そして小さな植物の名前まで、前田さんは島の魅力をあますところなく教えてくれた。ユーモアに富んだ語り口は耳に楽しく、前田さんが心から野崎島を愛しているのが伝わってくる。

野崎島で聞こえてくるのは、自然の音ばかり。鳥の声、波の音、風の音、大地を踏みしめる足音、口笛のようなシカたちの鳴き声。夜には、若いオス同士が角を突き合わせる音が聞こえるという。「ここにしていると、五感が研ぎ澄まされます」と前田さん。

木陰で休み、段々畑を駆け抜け、木々の間からひよっこ顔を出す。野崎島は、まさにシカたちの楽園であった。



ガイドの前田さんは、野崎島自然学塾村の塾長を務める。

立つ沖ノ神嶋神社。まるでサバンナを思わせる草原……。行く先で野生のシカに出会うことができる。

圧倒される大自然と奥深い歴史、そして小さな植物の名前まで、前田さんは島の魅力をあますところなく教えてくれた。ユーモアに富んだ語り口は耳に楽しく、前田さんが心から野崎島を愛しているのが伝わってくる。

野崎島で聞こえてくるのは、自然の音ばかり。鳥の声、波の音、風の音、大地を踏みしめる足音、口笛のようなシカたちの鳴き声。夜には、若いオス同士が角を突き合わせる音が聞こえるという。「ここにしていると、五感が研ぎ澄まされます」と前田さん。

木陰で休み、段々畑を駆け抜け、木々の間からひよっこ顔を出す。野崎島は、まさにシカたちの楽園であった。

旧野首教会

野崎集落跡

